出動回数増え予算追加へ

対象路線の拡大も背景に

松本市の除雪作業。相次ぐ降雪で費用が増加している

松本・木曽地域の全市町村が予算の追加補正に動いている。相次ぐ降雪により出動回数が増え、燃料代や融雪剤散布の費用が増えたためだ。松本市は当初予算の2・1倍の約2億円の追加補正案を近く議会に提出する。木祖村は12月議会で当初の倍となる2000万円を追加補正したがなお不足が見込まれ、再度の追加補正を予定する。

「高齢者が多くなりてきたい」との要望に沿って、各自治体が除雪の対象路線そのものを増やしていることも除雪費が伸びる背景にある。塩尻市が今冬に行う除雪の対象市道は229キロと過去最長だ。作業する道路が増えればその分、除雪費も拡大する。

ただ、どの市町村も財政状況は厳しい。安曇野市は今冬、市民の要望を受けて、市職員が対象区間でない生活道路の除雪を行った。同市の宮沢宗弘市長は1月下旬の記者会見で「除雪対象とならない生活道路などでは〝自己防衛〟で除雪をお願いしたい」と市民に協力を要請した。

請に負う建設業者自体が減っていることも喫緊の課題として浮上している。松本市では平成17年度以降、大手5社、中堅4社が除雪業務から撤退し、機動力が弱まっている。維持費の掛かる除雪車を売り払ったり重機操縦者の確保が困難だったりすることが要因となっている。こうした状況を受け、塩尻市は新年度、8トン級の除雪車1台を購入し、必要に応じて業者に貸し出す計画だ。松本市も除雪機械の貸与を検討する。

15日も朝から雪が降った。塩尻市の担当者は「この先は雪が少ないことを願う」と話していた。

慢性臓器不全治療に光

信大・新藤教授ら研究発表

信州大学大学院（松本市旭3）の医学系研究科・新藤隆行教授（46）＝循環病態学＝の研究グループが、アドレノメデュリン（AM）とRAMP2（ランプツー）という二つのタンパク質が体内で血管や臓器を健康に保ち、正常に働かせる中心的な役割を果たしていることを解明した。心不全や腎不全といった「慢性臓器不全」の新しい治療法につながるとし、19日に米国の学会誌で研究成果を発表する。

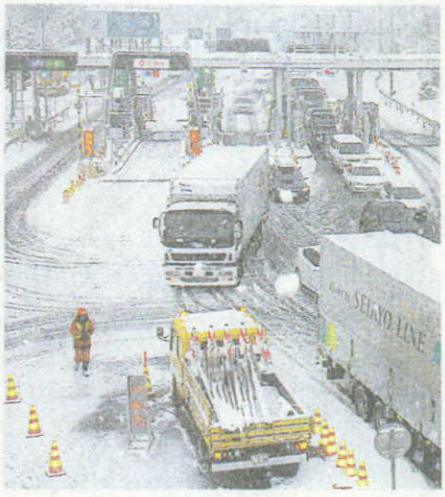
新藤教授らが15日に信大松本キャンパスで記者会見した。血管自らが作り出すAMは、血管の壁を広げたり、健全な臓器の状態を保ったりする作用がある。こうしたAMの役割をランプツーが制御することが、マウスを使った実験で解明された。

特殊な遺伝子操作技術によってランプツーを特定の場所で壊すことができるようになり、マウスの血管でランプツーを消滅させることを試したところ、血管の壁の細胞がはがれるという現象が起きた。さらに腎臓の組織がボロボロになり、肝硬変も発症した。

こうした結果からAMとランプツーが血管の健康維持に重要な役割をしていることが分かった。新藤教授は「心不全、腎不全などの予防策や治療法につながる」と述べた。（土屋智彦）

会見で研究成果を説明する新藤教授

雪で長野道通行止めに



中信地方は15日、朝方から夕方にかけて広い範囲で雪となり、松本で7センチ、木曽町開田高原で8センチの降雪を観測した。長野自動車道は除雪作業のため、午後1時前から塩尻インターチェンジ（IC）～岡谷ジャンクション（JCT）間が上下線とも通行止めとなり、午後8時現在も続いている。

JRの各線や松本電鉄上高地線、県営松本空港発着の定期便に影響はなかった。（小岩井貴之）

15日午後6時18分ごろ、県南部を震源とする最大震度3の地震があった。松本市丸の内、塩尻市の楢川保育園、木曽平沢、南木曽町読書小学校、木曽町新開で震度2を観測したほか、中信地方各地で震度1を観測した。震源の深さは約10キロ、地震の規模を示すマグニチュードは4・3と推定される。

月見やぐら

常識のうそ

プロ野球をはじめ多様な競技の一流選手を指導する福島大学の白石豊教授は「従来のスポーツの指導法には『常識のうそ』がたくさんある」と指摘する。体罰の背景に「指導がうまくいかないことへのいら立ちがある」とも語り、科学的な正しい指導法を学ぶ必要性を説く。

小中学生の野球指導に関わる中で、練習すれば上達できるという実感こそが選手のやる気を引き出し、信頼されると感じている。指導法が正しいか否かは結果を見れば

の出ない練習は

そがあると気付

心理、技術、

の科学的な仕組

ンスよく育てる

入り込む余地は

の勝負

は、選

極性で

心の

大会の1試合

選手を成長させ

勝ち進むことに

利至上主義が重

それに見合う指

ていないことが